

1. 社会・治安情勢

- (1) リオデジャネイロ州全域でけん銃や小銃、手榴弾等を使用した殺人、強盗等の凶悪事件が引き続き多発している。

2008年以降、積極的なUPP（州軍警察平和構築部隊）の設置などにより改善しつつあったリオの治安は、2013年頃より伯経済の低迷などを背景として、再び悪化の一途を辿っており、2016年に入ってから、リオ州の財政破綻によって警察当局が治安対策のために必要な人的・物的対策を十分に整備することが困難となったこともあり、オリンピック・パラリンピックが終了した一昨年後半から急激に体感治安が悪化している。

- (2) 依然として貧困層の少年らによる「アハスタオン（地引き網）」と呼ばれる集団強盗事件が市内中心部や海岸、幹線道路沿いで発生しており、治安当局もこれらの取締りを強化しているが、健全育成の方針を主眼とした少年法の影響により、逮捕した被疑少年の多くがすぐに釈放されてしまうなど、警察による取締りが治安改善に直結していない現状にある。

- (3) 現在、リオデジャネイロ市内及びその周辺に約1,000か所存在するといわれるファベラ（スラム街）を中心に敵対する麻薬密売組織間における抗争が激化するとともに、UPPをはじめとした治安当局と麻薬密売組織間における銃撃戦が頻発しており、流れ弾による一般市民の被害が後を絶たない。

さらに、幹線道路等においては、積荷を積載した車両を襲撃し、車両ごと強取する手口などによる積荷強盗が多発しており、喫緊の課題となっている。

- (4) これら課題に対処するため、連邦政府による国家治安計画に基づき、昨年7月28日から2018年末までの間を目処として、総計10,240名から成る国軍兵士や国家治安軍、連邦道路警察官等がリオ州内へ投入され、薬物銃器・積荷強盗対策に従事しており、一定の成果は見られるものの、その根絶には至らない状況にある。

- (5) リオ州政府としても、連邦政府からの援助を得た上、治安を担当する公安局が中心となり、治安回復に取り組んではいるものの、州の財政難による新規採用警察官の見送りや装備・資器材の故障、殉職・離職警察官の増加、組織的な汚職警察官の摘発等により警察力が低下する一方、凶悪犯罪は増加しており、犯罪の増加に歯止めを掛けられない状況にある。

- (6) また、長引く不況を背景として、リオ市内におけるホームレスの数も数年前と比較して激増しており、麻薬中毒者が町中を徘徊するなど、こうした状況が体感治安の悪化に拍車を掛けている一つの要因とも言える。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

- (1) リオ州公安局統計院（ISP）によれば、2017年1月から10月までの間

のリオ州内における殺人事件発生件数は、4, 429件で、前年同期と比べて312件(7.6%)増加している。また、強盗事件発生件数は、19万3,321件で、前年同期と比べて2万3,919件(14.1%)増加しており、特に車両・携帯電話強盗の増加が著しい。

(2) 麻薬密売組織抗争を背景に、ファベラ周辺の治安が急激に悪化しており、注意が必要である。

3. リオ州犯罪発生状況 2017年10月(前年同月比増減数)

	リオ州	リオ市
殺人	479 (+14)	144 (+44)
強姦	503 (+91)	137 (+9)
商業施設強盗	624 (-21)	287 (+42)
住居侵入強盗	104 (-6)	39 (-5)
車両強盗	4,266 (+85)	2,031 (+252)
路上強盗	7,459 (-1498)	3,748 (-281)
交通機関内強盗	1,201 (-325)	687 (-133)
携帯電話強盗	2,248 (+301)	1,227 (+213)
強盗総数	19,451 (-774)	10,128 (+604)
窃盗総数	13,037 (-666)	7,596 (-234)
認知件数	68,004 (-2267)	33,028 (-260)

4. リオ市南部犯罪発生状況 2017年10月(前年同月比増減数)

【フラメンゴ・ボタフォゴ地区】

殺人	2 (+2)
商業施設強盗	27 (+8)
住居侵入強盗	3 (+2)
車両強盗	18 (+8)
路上強盗	110 (-4)
交通機関内強盗	16 (-2)
携帯電話強盗	37 (±0)
強盗総数	253 (+18)
窃盗総数	468 (-17)
認知件数	1,357 (-154)

【コパカバーナ地区】

殺人	2 (+2)
商業施設強盗	15 (+5)
住居侵入強盗	2 (+1)

車両強盗	2	(-2)
路上強盗	69	(±0)
交通機関内強盗	6	(±0)
携帯電話強盗	20	(+4)
強盗総数	158	(+9)
窃盗総数	556	(-64)
認知件数	1,242	(-95)

【イパネマ・レブロン地区】

殺人	5	(+4)
商業施設強盗	6	(±0)
住居侵入強盗	2	(±0)
車両強盗	8	(+5)
路上強盗	52	(-22)
交通機関内強盗	5	(-10)
携帯電話強盗	14	(-2)
強盗総数	106	(-40)
窃盗総数	331	(-130)
認知件数	1,120	(-171)

5. 一般事件等（邦人の安全に係るものを抜粋）

（1）リオ市『ホシーニャ・スラム街』でスペイン人観光客の死亡事件が発生

10月23日（月）午前10時30分頃、リオ市南部『ホシーニャ・スラム街（Rocinha）』のラルゴ・ドス・ボイアデイロス広場（Largo dos Boiadeiros）において、リオ州軍警察の検問を突破した（停車しなかった）車両が警察からの銃撃を受け、同車に乗車中のスペイン人観光客1名（女性・67歳）が死亡した。同車（フィアット）には、ガイドのほか、イタリア人1名、スペイン人3名が乗車していた。

（2）リオ州軍警察がスキミング被疑者を逮捕

11月24日（金）午後、リオ州軍警察が、リオ市南部コパカバーナ地区のATM機15台にスキマー（クレジットカードやキャッシュカードのデータを抜き取る機器）を設置したとして、被疑者1名（男性）を逮捕した。

男は、コパカバーナ地区のノッサ・セニョーラ・デ・コパカバーナ大通りやアトランチカ大通り沿いのATM機にスキマーを設置していたとのことである。

（3）ロジェリオ・アベリーノ・ダ・シルバ（通称ロジェリオ157）の逮捕

12月6日（水）早朝、リオ市北部『アララ・スラム街（Comunidade do Arará）』において、薬物銃器密売等により指名手配中のロジェリオ157（リオ市南

部ホシーニャ・スラム街を牛耳る麻薬密売組織の元首魁) がリオ州文民警察の捜査員によって逮捕された。

6. 邦人被害

(1) コパカバーナ地区で邦人男性旅行者の窃盗被害(置き引き)が発生

10月29日(日)午前9時30分頃、リオ市南部コパカバーナ海岸沿いの売店(Quiosque)において、邦人男性旅行者1名が、所携のリュックサックを同店の椅子に置いた上、店員と話をしようと同リュックサックから目を離したところ、同リュックサックを窃取された。

(2) リオ市南部カテチ地区で邦人女性の窃盗(ひったくり)被害が発生

11月29日(水)午後8時30分頃、リオ市南部カテチ地区ラルゴ・ド・マシャード駅前において、邦人女性1名が、友人と待ち合わせ、友人と合流後、携帯電話を手にしていたところ、いきなり大柄な黒人男性(20代、黒髪長髪(巻髪)、半袖・短パン着用)が眼前に現れ、同女が右手に把持していた携帯電話を奪い取り、窃取した。

7. テロ・爆弾事件発生状況

事件の発生は認知していない。

8. 誘拐・恐喝事件発生状況

邦人被害は認知していない。

2017年1月から10月までの間、リオ州内で短時間誘拐80件(10月中5件)、恐喝1,229件(10月中116件)が発生しており、いずれも高い水準で推移している。